

遊びを用いて重い病気や障害を抱える子どもを支援する専門職「ホスピタル・プレイ・スペシャリスト」(HPS)を10年にわたり養成してきた。理事長で静岡県立大短期大学部准教授の松平千佳さん(52)は「どんなに障害が重い子どもも自然体で過ごせる環境を作りたい」と話す。

子どもが緊張や我慢を強いられずに医療を受けられるよう促すのがHPSの役割。手術への理解を深めるため針のない注射器で遊ん



HPSの用意した電飾でリラックスする子ども

病児らの緊張ほぐす

だり、リラックスさせるため暗い部屋で電飾を触ったりする遊びを提供する。病児に関する高度な知識も求められる。

15年前、社会福祉の研究でHPSの発祥地の英国を訪れた際、HPSの傍らで障害児が明るく笑う姿に心動かされた。「日本でも必要だ」と考え、2007年度に同大短期大学部に国内唯一の養成講座を開設。これまで160人以上のHPSを輩出した。全国約90か所の病院や障害児施設などで活躍している。

ワークショップや国際シンポジウムも開き、普及や啓発にも力を入れている。松平さんは「多くの子どもが自己実現できるようにサポートしていきたい。そのためには、ホスピタル・プレイの理念をもっと全国に広げたい」と話した。

(静岡支局 吉広恵理子)

一般部門

地道な活動 広がる輪

H29.12.7(木)

読売新聞



読売福祉文化賞